

股・膝関節の人工関節置換術施行患者に対する早期リハビリテーション実施率

測定値の定義・計算方法

Process

分子： 分母のうち、手術当日から数えて4日以内にリハビリテーションを実施した患者数

分母： 股・膝関節の人工関節全置換術を施行した退院患者数

活動のきっかけ

人工関節置換術は、OARSI のガイドラインにて、非薬物療法と薬物療法の併用によって十分な疼痛緩和と機能改善が得られない場合に有効とされ、費用対効果も高い手段であると言われており、術後のリハビリテーションは合併症の予防と機能回復の観点、早期に実施されることが望ましいとされている。従って、術後患者に対してリハビリテーションを提供する体制の構築が必要であり、他病院とのベンチマークを行い、実施体制の構築に向けて取り組む必要がある。

改善活動部門

● リハビリテーション部

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
- 昨年度の件数は136件。 - 早期リハ実施率は、100%となり、目標値の95%は達成。 - 医師の診察から処方までの流れ、および、術後早期からのリハ提供体制は構築できている。	- 早期介入の体制作りは構築されているが、早期介入の効果などについては課題を残している。 - 今後は、術後のせん妄や肺炎などの合併症発生率に対する早期リハ介入の効果や、身体機能やADL機能の予後に対する早期リハ介入の影響やプロトコルの達成率のモニタリングを予定している。